

今年度第5回目となる外国語活動・外国語科の研究授業を原 朋美教諭が行いました。協議会では、外国語活動の指導方法について協議を行いました。指導・講評では、文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生よりご指導いただき、研究を深めました。

## 研究主題

### 関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～ 思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:4年2組 担任 原 朋美教諭

単元名:Let's Try! 2 Unit 「What do you want?」

指導講評:文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生より



### 〈研究経過報告〉

#### 研究の視点について

##### 視点1 評価の工夫

振り返りカードに相手に配慮する項目を入れる。それを毎時間、めあてのときに確認し、自分が何を意識して行うかを考えさせることで、目標をもちながら取り組むことができると考える。

##### 視点2 目的・場面・状況等を明確にした言語活動の工夫

単元の始めに「外国語で考えたオリジナルスープを栄養士の先生に紹介する」という最終活動を行うことを伝え、児童が、見通しをもてるようにした。最後に自分が考えた給食を紹介し、グランプリに選ばれたらその給食が実際に出てくるといふことで、意欲を高め、必然性のある活動を設定した。やり取りでは売るための食材を決めるために「欲しいものランキング」を作ったり、お店で欲しいものを売ったり買ったりという場面を設定した。そのため、必要なことや表現は何かをクラスで考えたり、表現に繰り返し慣れ親しむような活動の工夫を行ったりした。

##### 視点3 表現を繰り返し使うための工夫

本単元はたくさんの食材の単語を外国語で話してやり取りしなければならないため、やり取りする中で児童が単語の言い方や伝え方が分からないことが想定される。今回アンケート調査を行った結果、外国語が苦手な理由として「何を言っているのか分からない」「うまく話せないから自信がもてない。」ということが分かった。その一方で、友達とやり取りをすることは楽しいと思っている児童がいたり、「もっと外国語で話したり聞いたりできるようになりたい」という児童が96.8%いた。このことから中間指導で分からないことをクラス全体で共有し、自信をもって言えるようにしていく。また、児童がさらに自信をもって話すことができるように「聞く側」の反応も大切だと感じた。そこで、聞く側の聞き方を考えさせ、確認する時間も設

けていきたと考えている。言う側、聞く側も繰り返し言うことでその表現に慣れ親しみ、自信をもって活動に取り組ませていく。

### 〈授業者自評〉

今回の単元では、オリジナルスープのアイデアを、栄養士に紹介し、グランプリを取れば、実際に給食で出してもらえる。そのため、単元の1時間目に本校栄養士が出演する動画を児童に見せたことで、児童のモチベーションが上がった。

外国語を話せるようになりたいと思う児童が多くいるので、授業を重ねるごとにどんどん話せることが増えていった。早い段階で“What do you want?”を児童が使えるようになり、児童にたくさんやり取りをしてほしいと考えていた。

今回は、お店の人とお客さんに分かれてやり取りをしたが、児童同士の表現が限られてしまうため、有効的なやり方があるのか知りたい。

### 〈研究協議会〉

#### お店屋さん形式は、やり取りを行う上で有効であったか。

- ・苦手な児童にとって、商品の絵の使用、買う物のメモがあることで教員側が支援しやすい。
  - ・目的があるから、お店屋さん形式だと分かりやすいが、欲しい物の単語だけのやり取りや間違えた言い方でもやり取りが完結してしまう児童がいた。どこまで児童に求めていたのか。
- イングリッシュキャラバンの際も単語だけで答えることが多かった。文章で答えるためには、もう少し時間をかけて、インプット、アウトプットしていく必要がある。(原)

#### 中間指導について

- ・中間指導があったことで、その後のやり取りが充実していた。
  - ・1回目の中間指導では、児童からの表現の仕方などの質問に対し答えていたが、2回目は分からなかったことを全員で共有できた方がよかったのではないかと。
  - ・前半と後半の活動する時間の差があった。前半の活動→中間指導→後半の活動にした方がよいのではないかと。
- 前半の方が質問など多いと想定していたため、後半の活動を短くした。(原)

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生〉

#### 言語活動

- ・隣同士でペアワークをするならば、配慮が必要。
- ・児童が持っているカードを使った場面設定は、インプットされたことを場面設定で確認することができるため、高学年でも活用するといえる。
- ・今単元は栄養士に考えたスープを実際に作ってもらえる。児童にとっては嬉しいこと。言語活動に欠かせない、コミュニケーションの意義や楽しみ、本物、必要性などが入っていた。中学校でも栄養士、限られた調理時間で作る、家庭科の教員へのプレゼンをする、ということができると、生徒が喜ぶ。そのためには、中間指導が大切。
- ・今回はお店屋さんでやり取りをしたが、近年では、“個人店より大型スーパー”“話さなくても買い物ができる”“お金の支払い方の変化”などやり取りをしないで購入するなど児童の生活実態とかけ離れている。しかし学習では、店員とお客さんに分かれてやり取りを楽しむということを行うのもよい。

#### 中間指導の在り方

- ・1回目の中間指導は、できる児童だけに表現を言わせるのではなく、全員に言わせる必要があり、時間がかかる。

- ・言語活動を行う際に、言語材料についての理解や練習を必要に応じて行うなど、言語活動でできなかったことを狙って指導を入れているか。
- ・目標に立ち戻ってできていたのか、アイコンタクト、表情、笑顔でコミュニケーションを取れたのかという3つのポイントなど確認することを中間指導で行う。